



黒い炎の戦士3  
白石一郎  
徳間書店 (新書)  
(3/31刊・¥680)

アドベンチャー連載『黒い炎の戦士』の三巻目。連載分は次巻の四巻目までで、以降は書下ろしに入る。ここまでは、ようやく全体の二分の一、途中経過の報告にしかならないが(と、書くことも多くなりました)、とりあえずストーリーは――。

黒い星の子たちの活動で、西洋帆船は灰燼に帰した。けれど、田沼意知は帆船再建の意図を捨てず、また黒子の動きがはじまる。一方、宙斎(平賀源内)は、空中に浮かぶ飛行船の建造を試みる。今回のエピソードでは、物語自体に大きな進展はない。白鬼対黒子の闘いでは、今回死んだのが一人だけ。天才学者六無齋の登場など、人物がらみの多彩さや、不思議な力を与える黒い石の秘密等が中心。とはいえ、読み進む上での遅滞はなく、まずは順調である。

こういった大河ドラマ的な作品は、あえて途中で取り上げる必要もないように思う。独立したエピソードも少ないのだから、全体をもって一つと考えるべきだろう。その辺り、シリーズ物の多い日本SFでは、いろいろと問題もあるが、本シリーズの次回レビューは全巻完結する、六巻刊行後としたい。(俊)